

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2794900023		
法人名	社会福祉法人 成和会		
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷		
所在地	大阪府富田林市桜井町2丁目1835番地		
自己評価作成日	平成 27年 2月 18日	評価結果市町村受理日	平成 27年 4月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2794900023-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2794900023-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 3月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・1ヶ月に1回、決まったテーマを職員2名が順番に担当を持ち内部研修を行っています。自分達で学習し発表することで知識の向上に繋がっています。  
 ・2Fのテラスに季節の果物や野菜を栽培、収穫しています。昨年10月には沢山のさつまいもが採れ、おやつ作りも楽しみました。毎日のみずやりでは、収穫を待ちわびる声がよくありました。  
 ・7月には、全フロア合同で夏まつりを行い、ご利用者様、ご家族様にも大変好評いただきました。来年もよろしくね。というお声もいただきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後30年、地域で活躍している社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。ホームは3階建て2・3階部分にあり、1階には小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。周辺には公園、神社、市民会館、幼稚園等があり、環境に恵まれています。近くに同法人特養があり、厨房で作った食事をホームに提供するなど連携した運営を進めています。ホームでは毎日2〜3種類のメニューから好みの副食を選べるようにしており、利用者の希望に副った食事提供をしています。ボランティアの協力により、書道、大正琴、オカリナ、フラダンス等を楽しみ、音楽療法、アロマセラピー、家庭菜園作り等に取り組むことで利用者の笑顔を引き出す効果も生まれています。管理者は職員の育成に力を入れ、職員は利用者一人ひとりの意向に副った支援を進めています。職員は利用者の暮らしが、さらに楽しく張り合いのあるものになるよう、家族と相談しながら取り組む予定にしています。行政との連携も良く、法人のバックアップもあることから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を提示するとともに、毎朝の朝礼時に唱和することにより、意識づけています。	「家庭により近い環境を目指します。自分らしさを大切にします。地域に根ざしたホーム作りに努めます」として、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げています。理念はホーム内に掲示し、職員は毎朝のミーティングで理念を唱和して共有し、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している(初詣、地域での買い物や秋祭りの鑑賞、会館のイベント利用、散歩の際の挨拶、飲食店での外食、学生交流等)	近くにある市民会館での展示会等の催しに出かける際には、地域の人々と出会い挨拶を交わしています。書道、音楽療法、大正琴等の地域ボランティアが定期的に来訪し、利用者との馴染みの関係を深め喜ばれています。隣接する地域の神社のお祭りでは、玄関前に山車が立ち寄り、職員と利用者が出迎えて楽しんでいます。また、休憩所としての役割も果たしています。校区の中学生が体験学習として施設に来訪し、利用者との交流する機会があります。地域消防団の協力を得て、何かあればすぐに駆けつけてもらえる関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は十分果たせていない。 地域への働きかけ及び協力体制の整備が課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況やサービスの実際、課題、評価への取り組み状況報告し、そこで得た意見等をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の規程を定め、2か月に1回、年6回の定期開催をしています。 メンバー構成は、利用者の代表・利用者代表の家族、地域住民の代表、地域包括支援センターの職員、事業所法人代表、事業所の職員としています。 最近の会議では、事業報告(ホーム入居者状況、行事報告)、人事異動等を議題としています。空気清浄機の活用、職員紹介、消防訓練等について発言があり、意見交換をしています。会議で出された提案等については、ホーム運営に活かすよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>主に事故報告書・入居者情報の提供を行うことで連携を図っている。</p>	<p>市の担当者には、2カ月に1回利用者登録状況等を報告し、ホーム運営について相談しています。また相互に情報交換を行い、利用者支援に活かしています。対応困難な課題が生じた場合には、市の担当者と相談しながら進めています。市が主催する出張研修制度を活用し、認知症サポーターの育成を行うなど、連携した取り組みを進めています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>フロア会議で身体拘束は基本禁止の意識付けを行っている。エレベーター横にロック解除の暗証番号の貼り出しをしている。外に出たい方は職員付き添い外出し、付き添ってほしくない方は職員が後ろから様子を伺う等の対応をしています。</p>	<p>運営規程に「身体拘束の禁止」の項を設け、緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束を行わない方針を明記しています。ホームでは職員間で討議を行い、家族と相談した結果、当面、利用者の状態が安定するまでの期間と限定して、夜間のみベッドに四方柵で対応しています。玄関には施錠をしていますが、利用者が生活している2階、3階のエレベーターを自動ロックしています。自動ロック解除の暗証番号はエレベーター扉横に貼り出していますが、利用者が活用し、外出することは困難な状況です。利用者が外出を希望する際には、職員が同伴して外出支援をしています。</p>	<p>今後の課題として、エレベーターの自動ロック解除に取り組んではいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来られたら職員から声かけをして、意見や要望を出してもらうようにしています。また、日常的に利用者の希望や意向を確認し、支援に活かしています。苦情相談窓口を明示して、苦情相談受付箱を設置し、意見が出やすいようにしています。家族から提案等があった場合には、職員間で話し合い、ホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。            職員の意識やチームワークの向上に向けて1ヶ月に1回、職員2名ずつ順番にテーマを元に内部研修を行っている。</p>	<p>管理者は、日常的に職員の声や要望を聞き、ホーム運営に反映するよう努めています。また、必要時には個別面談を行い、職員の考えを聞いたり助言したりしています。職員は、フロア会議やミーティング等で発言し、提案する機会を持っています。管理者は、職員間で合意を得た意見や提案について、ホーム運営に活かしています。また、必要な場合には、法人本部へ相談するなどして、実現に努めています。管理者は職員育成に力を入れており、職員の希望を活かした年間研修計画を策定しています。外部研修には積極的に職員を派遣し、スキルアップを図っています。また、月1回職員が講師となつて行う内部研修会を充実させて利用者支援に活かしています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	職員は、利用者の旧友や知人が来訪されたら歓迎してゆっくりできるように支援しています。利用者の馴染みの場所へドライブしたり、馴染みのスーパーで買物をしたり、外食したりする支援を心がけています。また、利用者が家族と共に墓参り、外食、買物、馴染みの美容院等に出かけられるよう、家族の協力を得ています。利用者が希望される場合には、手紙や年賀状を出したり、電話をかけたりの際の支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活習慣や生活歴を把握し、一人ひとりの得意なことや苦手なことに配慮した支援をしています。また、食事の好みを尊重し、副食を選べるように支援しています。利用者が言葉で表現できない場合には、実物を示したり、表情で意向を確認したりしています。ホームでは、継続して音楽療法やアロマセラピー、観葉植物、菜園作り等に取り組む中で、利用者の笑顔が生まれ、思いを引き出す効果も出ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書作成時には、事前に利用者・家族の意向を確認し、職員間でアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催しています。介護計画書は月に1回モニタリングを行い、3ヵ月～6ヵ月を目途に見直しをしています。介護計画書は、状況に応じて随時見直しを行い、必要時には家族、かかりつけ医師、同法人管理栄養士や看護職員とも相談して、利用者本位で検討しています。	ホームではサービス向上の取り組みとして、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、日々の暮らしが楽しく張り合いのあるものになるよう、取り組む予定にしています。当面は利用者の希望に副って、嗜好品を楽しむ、役割を持って力を発揮する等の支援を検討しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館への舞踊鑑賞などのイベントへの参加や地域からの訪問散髪も導入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療がうけられるように支援している。	医療機関受診については、利用者・家族の意向に添った支援をしています。また、利用者・家族の希望に副って協力医療機関の医師による訪問診療が受けられるよう、支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを必要に応じて小規模多機能所属の看護師や訪問の看護師に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホームでは看取り支援をする方針はありませんが、重度化した場合の対応については、入居時に利用者・家族に十分説明をして了承を得ています。重度化した場合の対応として、特別養護老人ホームへの入居申し込みをしている利用者もおられます。医療依存度が高くなった場合には、家族の意向を確認し、医師や看護師と相談しながら適切な療養の場を選択できるように支援しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎年、新人職員を中心とした消防署における救急講習の計画・実施を行っている。また会議にてシュミレーションで初期対応の判断で必要な事項を確認し、危機意識の向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでは、災害発生時対応マニュアルを作成し、年に2回以上の避難救出訓練等を行う方針を明確にしています。2014年度では昨年11月に消防署立会いのもと、昼間の災害発生を想定した避難訓練を実施しています。また、年度末には夜間想定での避難訓練を実施する予定です。運営推進会議に消防団のメンバーが参加し、災害時における協力体制について話し合っています。ホーム内に飲料水の備蓄をしていますが、食料品等の備蓄については企画中となっています。	備蓄は現在企画中のため、早急にホーム内に準備することが求められます。
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つく言葉かけや強い口調がないかスタッフ間で確認・注意し合っている。1人ひとり人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ対応している。 個人情報の取り扱いに関しては契約時に書面を交わしている。	利用者一人ひとりを大切にされた対応を心がけ、言葉使いや接し方については、職員間で確認しあって丁寧に対応するよう取り組んでいます。個人情報についての取り扱いは、職員雇用時に秘密保持を義務付け、雇用契約事項としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように声かけしている。食事のメニューを伺ったり、その他、本人から希望を必ず聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務は決まっているが、利用者の気分や体調に合わせて業務を変更できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問散髪がある。希望時はカラーリングも行っている。衣類の汚れはすぐに着替えるようにして整容に気をつけるようにして支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの嗜好品、食べやすい形態を把握し、選択メニューから選んで頂いている。又、時には職員と一緒に献立を考え、準備や調理を行うことも取り入れている。	同法人特養厨房で作られた給食がホームに運ばれ、配膳をして利用者に提供しています。主食は利用者に合わせて食べやすく調整し、副食は好みのもので選択できるようにしています。職員は毎月給食会議を行い、利用者の希望に副った献立作りをしています。利用者は毎月「いいご飯の日」や「ふるさと料理」を楽しみ、誕生日には松花堂弁当を味わっています。利用者の希望を聞き、対面で提供するにぎり寿司は利用者から好評です。職員は、利用者と共におやつやお好み焼き作りを楽しみ、ホーム菜園で育てた芋や苺を食材にして味わうこともあります。また、希望に副って、外食を楽しむ支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を活用して把握に努めている。1人ひとりの食事量が適量であるかを見ている。食事時間がずれる方への柔軟な対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の清潔が保てるように、毎食後、1人ひとりの口腔状態の確認や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要物品の選定・見直し及び個々の能力に応じたトイレ誘導及び排泄介助を行っている。	プライバシーに配慮しながら、排泄支援をするよう心がけています。排泄の失敗があっても、なるべくオムツを使用せず、排泄リズムに配慮した声かけを行うなどの工夫をしています。排便コントロールについても、日頃から意識して支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴確保を基本とし、1人ひとりの状況、希望、タイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。又、冬至にはゆず湯、端午の節句には菖蒲湯等で季節を感じてもらおう工夫をしている。	入浴を好まない利用者には、入りたくなるタイミングを図り、声かけの工夫をすることで、週に2回の入浴支援をしています。皮膚疾患等、課題のある利用者には、週5回程度入浴支援をしており、また夏場に向けて希望者の入浴の回数を増やすようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師からの薬の説明があり、内容不明時や処方について相談できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族・本人から生活歴を伺いスタッフ間で認識するようになっている。好きなものや楽しみを探して少しでも気分転換が出来るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>1人ひとりの状況や、その日の希望にそって、戸外に出かけられる支援に努めている。又、家族の希望協力により、外出、外泊も支援している。面会時や電話連絡時に、散歩・ドライブ等の近くの外出について報告している。</p>	<p>希望に応じてスーパーや薬局等にい物に出たり、近くの公園に行ったり、同法人小規模多機能の利用者と共にドライブに出かけています。また、体力的に外出しにくい利用者には、テラスやホーム周辺の散歩等に取り組んでいます。年間行事では、初詣やお花見等に出かけて楽しんでいます。</p>	<p>日常の外出支援について、一人ひとりの外出状況が把握できるよう、記録を工夫してはいかがでしょうか。利用者一人ひとりの支援状況を把握し、検討することで、さらにサービスの向上が期待されます。</p>
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階にテラスと菜園を設置している。利用者はテラスで花火鑑賞したり、散歩をしたりしている。居間や食堂、廊下は広くゆったり居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。空調も利用者の状態に合わせて温度設定をしている。	居間や食堂からは周囲の田園風景を望むことができ、開放的で明るくゆったりとしています。2階フロアでは廊下から、そのままテラスに出ることができ、テラスにある菜園で利用者と一緒に季節の野菜作りを楽しむことができます。また、テラスには洗濯物を干すスペースもあり、生活しやすい空間となっています。各フロアには空気清浄機を設置し、居心地良く過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・廊下にソファや椅子を設置し、1人になれる居住空間を大切にしている。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所作りの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の一角が畳のスペースになっているため、和洋どちらの生活様式でも使いやすくなっています。利用者の希望を聞きながら、出入り口に暖簾をかけたり、観葉植物を置いて一緒に世話を楽しんだり、花や写真、使い慣れた椅子を置くなどの工夫をして、一人ひとりにあった居心地の良い居室空間となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		